

日時：平成18年1月30日(火) 12:00~16:00

場所：(財)九州システム情報技術研究所 (ISIT) 第一会議室

出席：荒木、井上、興、二宮、末次、宇都宮、生野、庄山、田口、(事務局)川根、牛島

議題：

1. 新旧役員紹介・挨拶

新役員の荒木新 Chair, 井上新 Vice-chair, 興 新 Secretary, 末次新 Treasurer より, 就任の挨拶。残りの Committee メンバーは未定。二宮旧 Chair, 宇都宮旧 Vice-chair, 生野 Past Chair よりは Student Branch(以下 SB)の増設についてもお願いしたい旨ご指摘があった。田口旧 Treasurer, 庄山 旧 Student-Activities Committee Chair(以下 SAC-Chair)より挨拶。最後に事務局の川根氏、牛島氏より挨拶。

未定・改選が必要メンバーの説明。Executive Committee Member は規則として役員の半数が選挙によるものである規則からこれまで必要であったが、今期は必要がない。Membership Development Committee Chair は会員増強に関する(現在早稲田の小柳先生)。Professional Activities Committee は他の研究会などへの補助(宮崎大村尾)。Student Activities Committee は学生表彰や SB とのコンタクト(九大庄山)。Chapter Promotion Committee は新しい Chapter を作ることを仕事とする(九大牧ノ内)。Nomination Committee は役員改選を担当(従来は九産大の牛島先生)。表彰候補者の推薦も。Fellow Nomination Committee は従来規則では Section からしか Fellow を推薦できなかったときの名残で、現在は必要ない。

2. 前回議事録の承認(末次) ExC-2007-1-2

末次前 Secretary より前回の議事録 ExC-2007-1-2 の概略が読み上げられた。出席者の一部修正のち、承認。

補足事項:

- 次期 President は IBM の Terman 氏となった。
- 九州支部連合大会については、AP Chapter のアジアセッション独立共催は今年も行いたい。招待講演者の補助費を充実させること、アジアセッションの世話人が現地大学では招待後援者のサポートが十分できないため、独自共催による補助金追加と、招待講演者世話人を IEEE Fukuoka Section(以後 FS)から出すことができる。
- Web での掲載は、営利事業(広告掲載)であっても IEEE 本部は関知しない。しかし、収益を上げると課税の問題が起きるので、FS の方針として当面広告は載せない。その他の公募情報などは問題なく支部の判断でやって良い。

3. Japan Council 理事会報告(二宮) ExC-2007-1-3

理事会は年3回。2007/2008 の役員が決定されている。(資料は支部長が所有) IEEE Japan 設立については Japan Council(以下 JC)で議論しているが、President の

Trans-nationalism の主張と対立するためサスペンドしている。時期を見て再提案する予定。

支部活動報告については資料が回覧された。FS からは ExC-2007-1-3 の通り報告がなされた。シニアメンバー申請は FS から試行もかねて庄山先生が申請したところ、無事承認された。3 (+1,2)人のレファンレンス者の推薦(2, 3行の推薦コメント)が必要である。申請にかかる時間は半年ぐらいであったが、最初から論文リストや略歴などの書類を用意しておくべきと考えられる。

Long Range Strategy Committee は IEEE Japan の設立に関すること。

4. Japan Council History Committee 参加報告 (末次) ExC-2007-1-4

IEEE Milestone を対象とする。日本は受賞数が少ないので増やすべきという意見があり JCHC の方で推薦を増やしたい。申請のノウハウはすでに蓄積があるが、ブロンズ像の贈呈・設置などがあり、かかる費用などは支部が負担する。実際に世に出て 25 年以上経過し、社会への貢献度が大きいものに限られる。詳しくは ExC-2007-1-4 Page.8 を参照のこと。

5. 2006 年支部活動状況及び会員数の報告 (事務局、末次) ExC2007-1-5

支部主催・共催の研究会・講演会は最終的に 10 件である。(電気関係学会九州支部連合大会を追加) 印はホームページに登録がないため、本部に確認とのこと。

また、電子情報通信学会・回路とシステム研究会(CAS)の九州内での研究会は、自動的に FS 協賛であるとの取り決めがなされていたものの、2006 年は先方が忘れていたので協賛が外れていた。その結果 FS の 2006 年度実施報告には掲載できていない。2007 年はこういう事がないようにしたい。情報通信学会の「火の国シンポジウム」についても、FS の C Chapter との協賛が自動的になる。両者とも会告の形で協力し、事後報告をもらうことになっている。

会員数報告：会員は順調に増加している。会費滞納者が若干増えているが理由は不明。滞納者年度初めよりは減少したものの最終的に前年度よりは大きくなりそうである。

会計報告：事務局より会計報告。本部より SB への援助金の振り込みは今年はなかった。

金額が数千円なので、数年分がまとまってきているのかもしれない。Section Assessment が今年は大きく減額されている。生野 Past-chair から、Section Assessment は為替レートの影響かとの質問があったが、それだけではないと考えられるものの、他の要因は不明であるとの支部長の見解であった。Chapter 設立支援費の予算計上については、議論を行った結果、後述の EMBS と予備を考え、20 万を計上することとした。また、電気関係学会九州支部連合会の国際セッションなどに IEEE の発表賞を設立してはどうかとの意見も出た。

6. 福岡支部学生研究奨励賞受賞者の選考 (庄山) ExC-2007-1-6

庄山 SAC-Char より選考案について説明があった。19 名の応募者数に対し、授賞候補者が 10 名となった。大分・長崎・佐賀よりは応募がなかったが、IEEE 主催共催の学

会の機会が少ないためではないかと思われる。各論文を3人のレビューワーが審査し、5点満点で採点した。授賞者所属大学は早稲田大、九工大、宮崎大、九大、琉球大。Proceedingが多いが、Journalでも可である。海外から留学したばかりの学生でも、応募要領を満たせば応募できることが確認された。検討の後、10名の授賞者を原案通り承認することで決定した。

7. (提案)Student Branchへの定額補助について(末次) Fuk-2007-1-7

末次前幹事より、Student Branchの支援を年4万で行う旨、提案があった。議論の結果、Chapterとの同額の2.5万/SBを活動費として予算枠として計上することとした。主にWorkshop参加旅費として考えられる。講演補助などはJCへのStudent Branch支援予算枠があるので、SBから支援要請を出すか、SBからFSに研究会補助を申請してもらおう。なお、SB ChairのStudent Workshop参加費はJCが確保していると考えられるので、その都度JCのStudent Activities Committee(東北大・青木先生)に相談のこと。

JCの実績では、少額(4万程度)であれば、SBが直接JCに依頼できるとのこと(Web上で申請書)で、Workshop主催(Hiroshima HISSでは50万)など大きなものはFSがSection支援費として申請する形をとっている。

8. TENCON2010立候補報告(末次) ExC-2007-1-8

末次前幹事より報告。10/25にRegional Conference Coordinator Y.J.Park教授にProposal Formを送付して立候補した。開催地決定の通知は2007年1月中旬とのことだが、連絡は理事会の時点では来ていない。3月末KonakitabaruruのR10のミーティングで発表される予定とのことであった。

9. EMBS西日本Chapter設立の件について ExC-2007-1-9

医療機械(EMBS)のInter-section Chapterの設立の提案について末次前幹事より説明があった。FSではInter-section Chapterの設立は初となる。設立はFSとしては認める。但し、責任Sectionを明確にすることを要望することとなった。設立支援費の額については後日メールで決定する。なお、今後のChapter, Students Branch新設の時の支援費に関しては、ともに支援額を10万として決定した。予算枠としては、前者20万、10万として計上する。なお、2.5万の支援費は設立の翌年からとする。

10. 電気関係学会九州支部連合会の役員については、今期はChair, Co-chair, Secretaryが就任し、運営委員会には興Secretaryが就任する。ただし、Secretaryが運営委員会を併任する必要はなく、今回のみの暫定措置である。

11. 次回の理事会について

新支部長が多忙のため、7月の17以降を予定している。